認知症：ともに新しい時代へ

― ADI 国際会議 開催への思い―

代表理事　**髙見国生**

新年おめでとうございます。

会員のみなさんにとって今年が良い年になりますようにと、お祈りいたします。

日ごろお世話になっているみなさまには、どうか今年もよろしくお願いいたします。

さて、年が明けて、ADI（国際アルツハイマー病協会）の国際会議がぐんと近づいた気がします。再来年の４月だと思っていたのが、来年の４月になりました。わずか１ヵ月の違いですが、１年の違いのように思います。年が替わるというのはこういうことなのですね。

ご承知のとおり、ADI国際会議は2004年に続いて２度目の開催です。これまで２度開催しているのは、アメリカ、カナダ、イギリスで、わが国は４ヵ国目になります。2004年のときのテーマは、「高齢化社会における痴呆ケア」で、2017年は「認知症：ともに新しい時代へ」と決まりました。テーマだけを見ても、この間の認知症を巡る状況の変化をうかがうことが出来ます。

「認知症」という言葉もなく「痴呆」と呼んでいた時代、高齢社会を控えどのようにケアするかが課題とされていた時代―それが前回の状況でしたが、それから時代は移り、認知症の人が思いを語るようになり、本人も家族も尊厳が守られるべきという時代になり、さあ次は新しい時代へ、という流れです。

「家族の会」は、認知症の人が思いを語り始め、「痴呆」が「認知症」に替わり、社会の関心が飛躍的に高まった2004年ころから以降を「認知症新時代」と呼びました。その、「新時代」をさらに新しい時代に進めようというのが今回の国際会議です。

ところで、「新しい時代」とはどんな時代か。

新しい時代とは、自分が認知症であることを何の躊躇もなく話せることができ、最後まで尊厳ある人生が送れる時代です。

新しい時代とは、家族が自分の人生を犠牲にしなくても認知症の人と生きられる時代です。

そのような時代を作り出すために、世界の実践を交流し知恵を出し合おうというのが来年の国際会議なのです。

国際会議は今年はハンガリーで開かれますが、実は、ヨーロッパの政情もありADI本部はそちらの準備に忙殺されていたようで、日本での会議についてはちょっと準備が遅れていました。しかし、昨年末には企業団体への協賛案内書も近く完成予定で、いよいよ準備も本格化しました。間もなくプログラム委員会も始動し、春ごろからは発表者の募集も始めます。いよいよ2017年４月27日～29日、国立京都国際会館での開催に向かって全力疾走が始まります。

わが国だけでも認知症の人の数は2012年で462万人と見込まれていたのが、2025年には700万人と推計されています。ごく単純に計算しても３分に１人のペースで増加することになります。世界中で言うと、毎年460万人が増加していると言いますから、７秒に１名の割合になります。もう、誰が認知症になってもおかしくない時代を、「認知症への不安の時代」から、認知症になっても安心して暮らせる時代へ―。それが、来年のADI国際会議を開催する「家族の会」の思いです。

その思いを多くのみなさんと共有したいと考え、国内の当事者団体５団体に呼びかけたところこころよく賛同していただき、今年の秋には京都と東京で６団体が共催して国際会議の前段階の集会(プレイベント)を開催することになっています。

国際会議が国内での仲間の絆づくりにも役立てば嬉しい限りです。

ぽ～れぽ～れでは２ページのコーナーですが、
ホームページでは１ページ分をご紹介します。

会員さんからのお便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

自分の人生がなくなるようで…

山形県・Aさん　50歳代　女

80歳の母は約10年前に認知症と診断され、今は要介護５で特養に入所しています。

セミナーに参加して、このような会があることを知り、悩んでいることがあるので入会しました。

今、母は施設に入居していますが、長く家で介護したせいもあるのか、どうしても手放せなくて、面会に頻繁に行っています。自分も仕事をしているのですが、なんか、自分を犠牲にしていて、自分の人生がなくなるようで…。

終わらぬ介護はない

東京都・Bさん　50歳代　男

88歳の実母は、今年の３月に家の中の段差で転び、腰痛のため一人では歩けなくなりました。認知症も患っており、ほぼ横になって寝ている状態で自宅で過ごしています。

「母親の介護」という意識で母に接するようになってから６ヵ月が過ぎましたが、一生懸命介護しようとするのに、言う事をなかなか聞いてくれない母にイライラする日々が続きました。これではいけないと思い、書籍以外の認知症に関する生の情報を集めたくて、認知症フォーラムなどに参加を始めました。今回、「認知症カフェを考える」というフォーラムに参加して「家族の会」の案内を頂戴し、入会させて頂こうと思いました。先輩の皆さま方の経験をお伺いし、参考として前向きに明るく介護に取り組めればと思っております。

終わらぬ介護はない、でも、先も見えない不安と焦燥…。まだ、始まったばかりの介護とともに生きる生活をゆっくり、しっかり、考えていきたいと思っています。

共感してくれる人がいない

大阪府・Cさん　40歳代　女

84歳の義父は今年認知症と診断されました。現在要介護２で、通所系のサービスを利用しています。

周りに悩みに共感してくれる人がいない。他の人の体験談、改善方法などの情報を得たいため、「家族の会」に入会します。現在の症状としては、ものとられ妄想、暴言が時々あり、困っています。

どうしてよいかわからない

千葉県・Dさん　70歳代　女

81歳の夫は２年前アルツハイマー型認知症と診断されました。

夫は要介護３で、私は要支援１です。１ヵ月のうち、半分くらいはショートステイを頼んでいますが、それでもどうしてよいかわからない時があり、悩んでいます。

警察沙汰になったら…

神奈川県・Eさん　70歳代　女

夫はうつ病の治療を開始後、足かけ10年。認知症を疑ってから４年、前頭側頭葉型認知症と診断されました。要介護３の認定を受け、

いきいき「家族の会」

・まちでもむらでも・

●全国の「家族の会」支部報からの活動を紹介!!
（編集委員　小宮俊昭）

長崎県支部　長崎全研カウントダウン

11月支部会報に長崎全研第１号のチラシが入っています。産業革命遺産となった「軍艦島」が洋上に浮かぶチラシは世話人さんの娘さんが作成して下さいました。そして第１号を記念して「会員の皆様一人ひとりにお知らせしたい！」との長尾支部代表の熱い思いで今回の送付となりました。

11月末には本部髙見代表が長尾代表と長崎県庁、長崎市役所を訪問しました。１年はあっという間に過ぎていきます。「大会の成功を目指してぜひ会員の皆さんの応援が必要です！」と支部では呼びかけています。

兵庫県支部　アルツハイマー月間・ウォークラリーで啓発

「家族の会」の主催で９月12日から11月21日までの間で延べ11日間日本海に面した豊岡市から淡路島まで認知症啓発ウォークを実施しました。行政、地域の家族会、会員等の集まりで幟をはためかせながら「認知症になっても安心して暮らせる街を作りましょう」などと声掛けしながらリーフレットを配りました。（表紙に写真掲載）

「最初は恥ずかしかったが皆さんと一緒に歩いているうちに声が出るようになった」と参加者から感想が寄せられました。この縁を大事にして地域の家族会と協力できる関係づくりをしていきたいと願っています。

三重県支部　妻が認知症・思春期の娘さんたちの対応に悩む

四日市市認知症地域支援推進員の方の参加を得て若年性認知症家族のつどいを開きました。Ａさんには認知症の妻と小６と中３の二人の娘さんがおられます。思春期の子育ての最中に奥様が認知症と診断され頭が真っ白になったため、病院で「家族の会」を紹介されつどいに参加しました。

推進員を交えてご本人と家族のこれからの事について皆で話し合いました。又医療関係機関に対し、医療の開始と同時に本人と家族へ生活上の助言や心のケアも開始して頂きたいと「家族の会」では切に望んでいます。

青森県支部　認知症ほっと三行レター

市からの委託で行っている「はちのへ認知症フォーラム」で発表された入選作です。

認知症サポーター・一般部門《ぼくのひいばあちゃん。みんなの名前がわからなくなって３年たつ。会いに行くたび、ぼくは初めての人になる。それでもいいよ。》八戸市立旭ヶ丘小学校　佐々木理人君。

本人・家族部門《「認知症」になって　お父さんと手をつなぎ新婚さんみたい。助手席のお父さん「左よし！」。気がつけば男子トイレで化粧直し（笑）》前田美保子さん。前田さんは若年性認知症の夫の介護中です。

国際交流委員会発

ケアでつながる地球家族

●パキスタンの巻

「認知症グランドクイズ大会」

11月にフィリピンのマニラで開かれたADIアジア太平洋地域会議では、各国から「認知症にやさしい地域づくり」についての発表がありました。その中から、パキスタンの代表が熱く語った取組みの報告をお伝えします。

パキスタンは人口1億9000万人、高齢化率は約4.4％、そして、認知症の人は現在約100万人ですが、今後の急上昇が見込まれています。行政関係者や医師たちの認知症への関心はまだ低く、パキスタンアルツハイマー協会は、啓発活動に力を注いでいます。

それらの活動の一環として、去る９月、医学生を対象にした「認知症グランドクイズ大会」を開きました。出題は疫学、病理学、そして国際的な政策に関するものまで認知症に関連する幅広い知識が求められる内容です。まず、全国の12医大で選択問題による予選を実施、それぞれの大学の上位者５名からなる選抜チームが全国大会に出場しました。全国大会第１戦は筆記による選択問題、ここでさらに上位４校が、第２戦の口頭試問に挑戦、ここでの勝者２校が決勝戦に進み、ファティナジンナ医大が優勝しました。さながら、認知症クイズ甲子園といったこのイベントは、社会的にも大きな反響を呼び認知症啓発に大きな効果がありました。財源も人材も不足している厳しい状況のなかで、パキスタンアルツハイマー協会は将来にむけて力を注いでいます。　（国際交流委員　鷲巣典代）

口頭試問に応える決勝進出チーム

本人登場 No.128
私らしく仲間とともに

中国・四国　本人（若年）・家族交流会 in とっとり（鳥取県支部）

「みんなが参加できて、楽しく過ごせる交流会をしよう。ひとりひとりの素晴らしい笑顔があふれる会を」との思いから、10月31日（土）に倉吉市・伯耆しあわせの郷で一日交流会を開催しました。日帰りの日程でしたので、県外からの参加はありませんでしたが、ご本人９名、家族９名、世話人・支援者の合計40名の参加がありました。認知症疾患医療センターの医師、県の長寿社会課長も参加し、県内全域での交流となりました。

楽しくみんなで昼食タイム

交流会の様子

10時30分に開会し、参加者の自己紹介と、近況報告をしていただきました。顔なじみの方もあり、初めて出会う方もありでしたが、和やかな雰囲気の中で、皆さん、緊張しながらも積極的に話をしてくださいました。

11時30分からはみんなで昼食準備をして昼食会です。大山おこわと野菜の味噌汁、ふろふき大根。秋の味覚満載のメニューに「普段は少ししか食べないんですよ」という方もお代わりをされるなど、皆でワイワイと楽しく食べました。

午後からは本人交流会、家族交流会に分かれての話し合いと、本人と支援者でレクリエーションを楽しむグループに分かれました。家族交流会はいつもの通り盛り上がり、本人交流会では３名の本人が「自分の病気、将来に対する思い、治療について、家族への感謝の気持ち、これからやってみたいこと」等々、いろいろな思いを語ってくださいました。

簡単ストレッチで緊張もほぐれました

本人の声

- 病気をしっかり診てほしい
- 治る薬が出来ないかな？
- 幻視とうまく付き合いたい。でも、難しいんだ。
- 今が幸せ、家族に感謝している。
- 海外旅行に行きたい。
- 妻の実家は遠いが一緒に帰りたい（帰してやれないので）

本人の話し合い▶

交流会を終えて

「やっぱり、一泊にしたいな」と思いました。ゆっくりと共に楽しい時間を過ごすことで、ご本人の力があふれだし、自分自身を発揮できるのではないかと思います。言葉で思いを伝えられる方、言葉にはできないけれど、表情やしぐさで伝えてくださる方、本人の皆さんの思いを来年もつなげていければと思います。　（鳥取県支部世話人　前田好子）

情報コーナー　本人交流の場

（詳細は各支部まで）

山形◉2月2日㈫ 午後1:30～3:30／若年性認知症の人と家族のつどい→さくらんぼカフェ（県白川庁舎内）
●2月20日㈯ 午後1:00～3:00／置賜・本人のつどい→すこやかセンター
埼玉◉2月20日㈯ 午前11:00～午後2:30／若年のつどい・深谷→特養フラワーヴィラ
●2月24日㈬ 午前11:00～午後1:00／若年のつどい・大宮→大砂土ふれあいの里
富山◉2月6日㈯ 午後1:30～3:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ
岐阜◉2月21日㈰ 午前11:00～午後3:30／各務原市のつどい→ニッケかかみ野苑
●2月28日㈰ 午前11:00～午後2:00／岐阜市のつどい→アルト介護センター長良
滋賀◉2月10日㈬ 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→成人病センター職員会館
鳥取◉2月16日㈫ 午前11:00～午後1:00／西部にっこりの会→米子市・まちなかカフェわだや
●2月27日㈯ 午前11:00～午後3:00／東部にっこりの会→コモン・古方温泉
広島◉2月6日㈯ 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会東部→福山すこやかセンター
●2月13日㈯ 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター
●2月20日㈯ 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会北部→三次市十日市コミュニティセンター
●2月27日㈯ 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会西部→あいプラザ
福岡◉2月6日㈯ 午前10:00～午後0:30／あまやどりの会→福岡市市民福祉プラザ
大分◉2月6日㈯ 午後1:30～3:30／若年性認知症のつどい→大分県社会福祉介護研修センター